科目名（英）	解剖生理学Ⅱ Anatomy and PhysiologyⅡ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	小林 穣4/矢澤 一彦4
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後 期 水曜 7限

【実務経験】
大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。

【授業の学習内容】
人体の構造や機能および、病態の症状についての知識を定着させる

【到達目標】
人体の構造および機能について理解する。

【使用教科書・教材・参考書】
・「系統看護学講座専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能1」医学書院
・「『系統看護学講座』準拠 解剖生理学ワークブック 医学書院

【授業外における学習】
毎回の授業後に復習を行う。

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【到達目標】 人体の構造についての知識を定着させる 【授業内容】 ・人体の大要（発生部含む）について ・細胞と組織	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 神経系の構造・機能についての知識を定着させる 【授業内容】 神経系①	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 神経系の構造・機能についての知識を定着させる 【授業内容】 神経系②	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 前半の授業の内容を定着させる 【授業内容】 中間テスト、前半の振り返り	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 循環器系についての知識を定着させる 【授業内容】 循環器系	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 呼吸器系についての知識を定着させる 【授業内容】 呼吸器系	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 筋骨格系についての知識を定着させる 【授業内容】 筋骨格系	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する。 【授業内容】 定期試験・解説		

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数 89～80点＝B評価
点数 79～70点＝C評価
点数 69～60点＝D評価
点数 59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	精神医学 Psychiatry	必修選択	必修	年次	2	担当教員	近藤由以子
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	前　期 水　曜　6・7限

【実務経験】
耳鼻科専従の言語聴覚士として検査業務、人工内耳リハビリテーションなどの業務に従事している。

【授業の学習内容】
精神保健福祉士、精神遅滞障害者福祉司、児童福祉司の資格を有する教員が、精神科の治療の本質であるスタッフと患者、家族とのかかわりにおいて、カンファレンスでの話し合いを有効に行うに重要な治療の基礎となる病気への理解を深める。授業では多くの種別で多くの事例を見てきたので、それを多く取りいれていく。分野は国家試験出題基準をもとに構成した。

【到達目標】
人工内耳(リ)ハビリテーションは、解剖・音響学的知識だけでなく、聴覚障害の歴史や社会保障制度、小児の場合発達段階にも注目して支援をする必要がある。大学病院で人工内耳の術前・術中・術後の(リ)ハビリテーションに関わってきた経験から、一連の関わりについて、系統立てた授業を行いたい。

【使用教科書・教材・参考書】
精神神経疾患ビジュアルブック　学研メディカル秀潤社

【授業外における学習】
専門用語が出てくるので事前学習をきちんとし、授業に備える。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 症候性精神障害の総論を理解し、せん妄や薬剤性精神障害の概要を理解し、対応する国家試験問題に答えることが出来る。 【授業内容】 症候性精神障害とは、せん妄の概要、身体疾患を治療する薬剤による精神症状の概要、国家試験対策。	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 精神作用物質使用による精神障害および行動の障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。 【授業内容】 アルコール依存症の概要、アルコール以外の精神作用物質依存(覚せい剤やドラッグなど)についての概要、国家試験対策。	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 気分障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。 【授業内容】 うつ病、双極性障害についての概要、国家試験対策。	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 統合失調症について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。 【授業内容】 統合失調症について、妄想性障害についての概要、国家試験対策。	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 神経症性障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。① 【授業内容】 中間テスト(10点満点)20分。 不安と不安障害についての概要、国家試験対策。	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 神経症性障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。② 【授業内容】 強迫性障害と解離性障害についての概要、国家試験対策。	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 ストレス障害と適応障害について理解し、対応する国家試験に答えることが出来る。 【授業内容】 心的外傷後ストレス障害について、適応障害についての概要、国家試験対策。	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 定期試験 【授業内容】		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	耳鼻咽喉科学 Otoalaryngology	必修選択	必須	年次	2年	担当教員	江洲　欣彦　矢澤一彦
学科・コース		授業形態	講義	総単位時間	8	開講区分 曜日・時間	前期　期 火曜　水曜　7 限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**

頸頸部外科専門医として、耳・鼻・頭頸部の臨床を10年程度

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**

耳・鼻・頭頸部の生理解剖の理解を元に臨床病態の理解へと繋げる。各疾患概念を理解し、その後病態の経過や治療法を学ぶ。臨床経験を活かし、画像を用いた分かりやすい講義を行う。

【到達目標】

1. 耳・鼻・頭頸部領域の各疾患概念の理解。2. 耳・鼻・頭頸部領域の治療法の理解。3. 臨床家として現場に立った時の倫理観の育成。

【使用教科書・教材・参考書】

標準言語障害学（聴覚障害/摂食嚥下障害学/言語聴覚療法評価。診断）等

【授業外における学習】

各講義前に該当する耳・鼻・頭頸部の生理解剖を復習して臨むことが望ましい。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 耳の解剖生理について理解し説明できる 【授業内容】 耳の解剖生理	9	【到達目標】 中耳疾患の理解、耳科手術理解 【授業内容】 急性中耳炎、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、滲出性中耳炎、耳硬化症、耳管開放症など
2	【到達目標】 耳の症候、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 耳の症候、診察、検査、治療	10	【到達目標】 外耳疾患、内耳疾患の理解/人工内耳手術 【授業内容】 外耳道炎、先天性外耳道閉鎖症、突発性難聴、外リンパ瘻、騒音性難聴、加齢性（老人性）難聴、遺伝性難聴、内耳炎など
3	【到達目標】 鼻の解剖生理、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 鼻の解剖生理	11	【到達目標】 顔面神経疾患、めまい疾患の理解 【授業内容】 ベル麻痺、ハント症候群、メニエール病、めまいを伴う突発性難聴、良性発作性頭位めまい症、前庭神経炎、聴神経腫瘍など
4	【到達目標】 口腔・咽頭の解剖生理、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 口腔・咽頭の解剖生理	12	【到達目標】 鼻・副鼻腔疾患、および嗅覚障害の理解 【授業内容】 急性鼻炎、慢性鼻炎、鼻アレルギー、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、後鼻孔閉鎖症など
5	【到達目標】 喉頭の解剖生理について理解し説明できる 【授業内容】 喉頭の解剖生理	13	【到達目標】 口腔、咽頭、唾液腺疾患および味覚障害の理解 【授業内容】 舌炎、口内炎、舌腫瘍、口唇口蓋裂、扁桃炎、扁桃肥大、アデノイド増殖症、睡眠時無呼吸症候群、耳下腺炎、ムンプス、唾石症など
6	【到達目標】 喉頭の診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 喉頭の診察・検査治療	14	【到達目標】 喉頭、気管疾患および嚥下障害の理解、音声外科学の理解 【授業内容】 急性喉頭炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープ、声帯結節、声帯溝症、声帯麻痺、気管切開と気道確保、嚥下障害、喉頭枠組手術など
7	【到達目標】 頸部・顔面の解剖生理、診察・検査、治療について理解し説明できる 【授業内容】 頭頸部の解剖生理	15	【到達目標】 耳鼻咽喉科学の理解の確認 【授業内容】 試験と解説
8	【到達目標】 難聴の分類を理解する。 【授業内容】 耳の解剖の復習と難聴の分類の理解		

【特記事項】

日頃からwebやSNSやAIを用いて、専門用語と病態の情報を収集しておくと学びが深まる。

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	臨床神経学 clinical neurology	必修選択	必修	年次	2	担当教員	小林　穣
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜　　7限

【実務経験】
言語聴覚士として、病院（急性期・慢性期・回復期）、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック（訪問リハビリ・通所）等で勤務経験あり。

【授業の学習内容】
長年の言語聴覚士との連携や指導経験を活かし，脳神経領域の疾患と障害を理解するために，脳神経の解剖・生理学の理解させる．言語聴覚臨床で遭遇する神経疾患を系統だてて分類，学習し，発症メカニズム，臨床症状を，1年次に学習した解剖・生理学的知識を参考にしながら学ぶ．

【到達目標】

脳を中心とした中枢神経の解剖，機能を基本を理解したうえで，脳血管障害，神経変性疾患などの神経疾患の各論について発症のしくみ，疾患の特長，治療の基本を習得する．これらの神経疾患で生じる障害を系統的に理解して，言語聴覚士としての疾患理解，患者理解の基礎とする．

【使用教科書・教材・参考書】
脳神経疾患ビジュアルブック（株式会社学研プラス）

【授業外における学習】

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 中枢神経の構造（解剖）と機能局在の概要について学習する．中枢神経の機能と臨床症状の関連を理解する． 【授業内容】 中枢神経の構造と機能について学ぶ	9	【到達目標】 感染症による脳炎の進行，症状などの特長をしる．自己免疫介在性脳炎について学び，感染症による脳炎との違いを知る． 【授業内容】 炎症性脳疾患（脳炎）について学ぶ
2	【到達目標】 脳MRI，脳CT，脳血流SPECT等の神経放射線検査について知る．神経学的診察による神経症状の症状を知る． 【授業内容】 神経検査について学ぶ	10	【到達目標】 アルツハイマー病，レビー小体型認知症，前頭側頭認知症，脳血管性認知症について，その特徴と対応について説明できる． 【授業内容】 認知症について学ぶ
3	【到達目標】 意識障害，脳神経麻痺，運動麻痺，感覚（表在知覚，深部知覚）障害について学習する． 【授業内容】 神経症候について学ぶ	11	【到達目標】 遺伝性ニューロパチー，後天性（栄養障害性，中毒性）ニューロパチー、ギランバレー症候群について説明できる． 【授業内容】 末梢神経障害について学ぶ
4	【到達目標】 脳梗塞，脳出血，くも膜下出血などの脳血管障害の各疾患についての特長とその治療について知る．脳局在機能と症状について復習する 【授業内容】 脳血管障害について学ぶ	12	【到達目標】 筋委縮性側索硬化症，パーキンソン病，脊髄小脳変性症，多系統萎縮症などの神経変性疾患について説明できる． 【授業内容】 神経変性疾患について学ぶ
5	【到達目標】 脳梗塞，脳出血，くも膜下出血などの脳血管障害の各疾患についての特長とその治療について知る．脳局在機能と症状について復習する 【授業内容】 脳血管障害について学ぶ	13	【到達目標】 多発性硬化症，ADEMなどの脱髄疾患，ギランバレー症候群などについて説明できる． 【授業内容】 脱髄性疾患について学ぶ
6	【到達目標】 脳腫瘍全般の症状の特長との種類（良性・悪性，細胞種別腫瘍）による予後や治療法の違いを知る．脊髄疾患を理解する． 【授業内容】 脳腫瘍、脊髄疾患について学ぶ	14	【到達目標】 ミオパチー・筋ジストロフィーについて各疾患の特長を説明できる．重症筋無力症などの神経筋接合部疾患について説明できる． 【授業内容】 筋疾患・神経接合部疾患について学ぶ
7	【到達目標】 脳外傷により生じる出血性疾患や脳挫傷，びまん性軸索損傷について知る．水頭症について知る． 【授業内容】 頭部外傷・水頭症について学ぶ	15	【到達目標】 臨床神経学の解剖・生理と疾患の特長について，基本的知識の習得を確認する． 【授業内容】 定期試験、総復習
8	【到達目標】 アルコール性神経障害、ウェルニッケ脳症、一酸化炭素中毒など代謝、中毒性疾患について各疾患の特徴を知る。 【授業内容】 アルコール性神経障害、ウェルニッケ脳症、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。※中間テスト		

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	形成外科学 Plastic Surgery	必修選択	必修	年次	2	担当教員	室田　由美子
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜　　5限

【実務経験】
病院・訪問リハビリテーション・児童発達支援放課後等デイサービス・特別支援学校にて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。

【授業の学習内容】
総合病院での口唇口蓋裂の臨床経験を活かした授業を行う。また、国家試験に出題されやすい部分を重点的に取り扱い、授業毎に学習分野の問題演習も取り入れる。口唇口蓋裂の症例に対応できるための基礎知識と評価治療の技術を身につけ、更に形成外科学の国家試験問題に慣れてほしい。

【到達目標】
・口唇口蓋裂の分類や評価や治療が分かる。
・皮膚の基礎知識や形成外科的な治療法の概要が分かる。
・形成外科学の国家試験問題を解くことができる。

【使用教科書】
①言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学第2版　②標準言語聴覚障害学発声発語障害学第3版　③言語聴覚士テキスト第3版

【授業外における学習】
教科書該当ページを読んで予習できると良い。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 口唇口蓋裂の分類と手術が分かる。 【授業内容】①p96-98, 148-150 口唇裂・顎裂・口蓋裂の分類と、口唇形成術・口蓋形成術について学ぶ。	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 口唇口蓋裂などに用いる補綴物が分かる。口唇口蓋裂の検査ができる。 【授業内容】①p155-158, p204-207 スピーチバルブ、パラタルリフト、舌接触補助床などの補綴物を学ぶ。鼻咽腔閉鎖機能や口腔内視診や構音評価の演習を行う。	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 口唇口蓋裂の抱える問題が分かる。口蓋裂の評価の流れが分かる。 【授業内容】②p151-162 開鼻声、瘻孔、構音障害、中耳炎、不正咬合を学ぶ。評価の重要ポイントを学ぶ。	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 口蓋裂の治療が分かる。中間試験を通しこれまでの学習内容を復習する。 【授業内容】②p162-177 構音訓練、MFT、ライフステージに応じた対応について学ぶ。	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 皮膚の基礎知識や形成外科的な治療法の概要について説明できる。 【授業内容】③p124-128 皮膚の解剖や組織移植について学ぶ。外傷・熱傷・褥瘡などの特徴について学ぶ。	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 頭蓋顔面の先天異常や皮弁による再建術や瘢痕拘縮の概要について説明できる。 【授業内容】③p129-131 トリーチャーコリンズや頭蓋骨縫合早期癒合症について学ぶ。各再建手術の特徴、瘢痕とケロイドの違いについて学ぶ。	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 国家試験過去問題を解く。	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	臨床医学 Clinical Medicine	必修選択	必修	年次	2	担当教員	小林 穣　柴崎　倭花
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後　期 火・木曜　　5・6限

【実務経験】
大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。

【授業の学習内容】
医療機関や地域リハビリテーションの現場での臨床経験にもとづき、知識だけでなく現場で必要とされるノウハウ等も伝えながら、国家試験に向けての対策を行っていく。

【到達目標】
言語聴覚士として必要な臨床医学について理解することができる。

【使用教科書・教材・参考書】
・「リハビリテーションビジュアルブック 第2版」学研
・「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学第4版」 医学書院

【授業外における学習】
毎回の授業後に復習を行う。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 臨床神経学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 臨床神経学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する①	9	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する④
2	【到達目標】 臨床神経学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 臨床神経学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する②	10	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する⑤
3	【到達目標】 臨床神経学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 臨床神経学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する③	11	【到達目標】 内科学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 内科学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する①
4	【到達目標】 臨床神経学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 臨床神経学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する④	12	【到達目標】 内科学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 内科学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する②
5	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する①	13	【到達目標】 内科学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 内科学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する③
6	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する②	14	【到達目標】 内科学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 内科学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する④
7	【到達目標】 リハビリテーション医学の領域において理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 リハビリテーション医学に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する③	15	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。
8	【到達目標】 7回までの授業内容を理解し、知識を定着させる 【授業内容】 中間試験・解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数 89～80点＝B評価
点数 79～70点＝C評価
点数 69～60点＝D評価
点数 59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	臨床歯科医学・口腔外科学Ⅱ Clinical dentistry and Oral surgeryⅡ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	代田 達夫
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 月曜　5限

【実務経験】
大学卒業後、主に代大学病院及び総合病院にて口腔外科医として勤務、また開業医経験もあり歯科全般を診療してきた。

【授業の学習内容】
歯科・歯科口腔外科分野は国試の中では、比重は少ないにも関わらず範囲は広い。したがってすべてを網羅するのは困難であるため、過去問及び予想問題を解いて理解を深めるとともに、周辺知識を網羅することで、自信をもって国試に臨めるような授業を行っていく。

【到達目標】
歯や口腔の解剖学的用語を押さえる
歯科口腔外科の中でも特に粘膜疾患の知識を重点的に覚える
口腔の知識を将来実際の臨床現場でつかえるようにする

【使用教科書・教材・参考書】
言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学第2版　プリント

【授業外における学習】

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 歯の構造と歯周組織を覚え、その役割を説明できるようにする。また、口腔内構造を理解し、説明できるようにする。 【授業内容】 テキストP6～P22	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 歯・口腔・顎・顔面の発生と発育に関して理解し、説明できるようにする。また、消毒・滅菌・感染予防対策を説明できるようにする。 【授業内容】 テキストP23～P28、P52～P60	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 う蝕、歯髄炎、歯根膜炎、歯周病、口腔ケアをt理解し、説明できるようにする 【授業内容】 テキストP66～P92	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 第1回～第3回までの復習、口腔・顎・顔面の先天異常、発育異常及び口腔・顎・顔面の損傷について理解し、説明できるようにする 【授業内容】 中間試験、テキストP94～P113	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 口腔・顎・顔面の疾患及び類似疾患にはどのようなものがあるかを理解し、説明できるようにする 【授業内容】 テキストP94～P145	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 口腔・顎・顔面の疾患及び類似疾患にはどのようなものがあるかを理解し、説明できるようにする 【授業内容】 テキストP94～P145	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 口腔・顎・顔面の疾患及び類似疾患にはどのようなものがあるかを理解し、説明できるようにする。また、咀嚼障害について説明できるようにする 【授業内容】 テキストP96～P105、P164～P180	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 第1回～第7回までの理解度を確認し、第1回～7回までの講義内容を復習する 【授業内容】 定期試験		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅱ Physical and Functional Diseases of the Respiratory System Ⅱ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	畦地　雄平
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 火曜　5・6限

【教員実務経験】
総合病院、訪問看護リハビリステーション勤務時、急性期及び生活期のリハビリテーション業務の実務経験がある。

【授業の学習内容】
病院、訪問業界で呼吸発声発語の臨床経験を積んできた教員が、呼吸・発声・発語の構造、機能について理解を深められるように、解剖生理学的知識を習得する授業を行
う。具体的には、解剖生理学のイメージを抱けるように実際の言語聴覚療法の動画や音声を活用する。また言語聴覚士として専門用語を適切に使用して説明できることを目

【到達目標】
呼吸、発声、発語の構造と機能を図と対比させて、説明ができる。
呼吸機能障害、音声障害、構音障害を説明するための解剖、生理学的な専門知識を取得し、病態を説明できる。

【使用教科書・教材・参考書】
【言語聴覚士のための講義ノート音声系肺・喉頭咽頭・口腔科学】考古堂刊 中野雄一

【授業外における学習】
毎回、授業後に復習をすること。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 呼吸発声器官の基本構造が説明できる 【授業内容】 気管・気管支・肺の構造と機能 発器官の構成、臓器の区部、基本構造	9	【到達目標】 喉頭を形成している喉頭の枠組みを説明できる 内喉頭筋・外喉頭筋の作用、内転外転筋を説明できる 【授業内容】 喉頭の枠組み 内喉頭筋・外喉頭筋
2	【到達目標】 呼吸・発声発語器官の機能について説明できる 【授業内容】 吸気と呼気の作用とメカニズム	10	【到達目標】 内喉頭筋、外喉頭筋の神経支配を説明することができる 発声メカニズムと音声の生理を説明することができる 【授業内容】 喉頭の神経、声帯の構造 発声のメカニズム（声域・声・声位・声区・高さ・強さ・音色）
3	【到達目標】 呼吸発声発語器官の主な検査について説明できる 排気量分画を説明できる 【授業内容】 呼吸運動の仕組み 換気、肺容量、呼吸量、時間呼吸量	11	【到達目標】 音声障害と疾患（病態）を知り説明できる。 嗄声を実際に聞きGRBAS尺度で評価できる 【授業内容】 GRBAS尺度の聴覚的印象 音声障害の病態、分類と疾患
4	【到達目標】 肺機能検査（肺気量分画）について説明ができる 拘束性、閉塞性、混合生換気機能障害の違いを知り説明できる 【授業内容】 肺活量、1秒量と1秒率 拘束性、閉塞性、混合生換気機能障害の違い	12	【到達目標】 構音器の基本構造と機能を説明できる 構音とメカニズムを説明できる 【授業内容】 下顎、舌、口唇、口蓋帆の位置と機能、作用 構音器官と言語音、母音、子音
5	【到達目標】 肺炎の原因、症状を説明出来る COVID(コビット)-19について説明できる 【授業内容】 呼吸器疾患・肺炎の分類、肺炎の特徴 SARS、COVID(コビット)-19の感染経路、症状、死亡率	13	【到達目標】 構音障害と疾患（病態）について説明できる 【授業内容】 構音障害の症状、構音の異常、鼻咽腔共鳴の異常 構音障害の病態
6	【到達目標】 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の原因、症状について説明ができる 拘束性肺疾患の病態の説明ができる 【授業内容】 慢性気管支炎 肺気腫	14	【到達目標】 構音障害と疾患（病態）について説明できる 【授業内容】 機能性構音障害 運動性構音障害
7	【到達目標】 免疫関連肺疾患、肺腫瘍の病態の説明ができる 呼吸器、呼吸運動、検査、呼吸疾患について復習ができる 【授業内容】 免疫関連肺疾患 肺腫瘍	15	【到達目標】 これまで学んだ呼吸発声発語の構造、機能、病態について改めて復習し 理解を深める 【授業内容】 定期テスト 定期テストの解答解説
8	【到達目標】 これまで学んだ呼吸器、呼吸運動、検査、呼吸器疾患について復習し中 間テストに挑む 【授業内容】 呼吸器、呼吸運動、検査、呼吸器疾患について復習 中間テスト、中間テストの解答、解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	聴覚系の構造機能病態Ⅱ Physical and Functional Diseases of the Auditory SystemⅡ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	畦地 雄平
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 水・木・金曜　5、6限

【実務経験】
言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で常勤講師を務める。

【授業の学習内容】
聴覚系の構造や機能を理解し、病態が起きた場合の症状について知識を定着させる。

【到達目標】
聴器の解剖生理について振り返り、問題を解きながら理解する。

【使用教科書・教材・参考書】
標準言語聴覚障害学－聴覚障害学　第2版 医学書院

【授業外における学習】
・予習と復習に力を入れる
・疑問を放置しない

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 外耳、内耳、中耳の構造を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴器の構造①	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 超神経、聴覚中枢の構造を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴器の構造②	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 聴器の機能を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴器の機能	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 前半の授業の内容を定着させる 【授業内容】 中間テスト、前半の振り返り	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 難聴の種類、特徴、平衡障害、その他併発する症状を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴覚系の病態①	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 難聴の種類、特徴、平衡障害、その他併発する症状を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴覚系の病態②	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 難聴の種類、特徴、平衡障害、その他併発する症状を定着させ問題を解けるようになる 【授業内容】 聴覚系の病態③	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 これまでの講義内容について振り返り、知識を定着させる 【授業内容】 定期テスト、総復習		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	神経系の構造・機能・病態Ⅱ Physical and Functional Diseases of the Nervous SystemⅡ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	小林　穣
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後　期 火　曜　　６　限

【実務経験】
言語聴覚士として、病院（急性期・慢性期・回復期）、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック（訪問リハビリ・通所）等で勤務経験あり。

【授業の学習内容】
脳・脊髄の中枢神経系、末梢神経系は、機能が部位ごとに異なり（機能局在）、決まった経路（伝導路）で連絡している。日常生活を営む上で、どのような機能を果たしているか、その働きを理解するために、基本的構造と機能、病態について、国家試験を意識しながら、学習する。

【到達目標】
① 脳・神経疾患の病態や治療を学び、患者の障害像を理解、説明することができる。
② 神経系の解剖や機能を結び付けて考えることができる。
③ 神経系の構造・機能・病態Ⅰの内容を再確認する。

【使用教科書・教材・参考書】

【授業外における学習】

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 中枢神経、末梢神経を取り巻く環境、基本原則を理解し、説明ができる 【授業内容】 ①中枢神経系をとりまく環境 ②中枢神経系と末梢神経系	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 脳と脊髄の構造、機能を理解し、説明ができる。大脳、小脳、脊髄などそれぞれの構造の説明ができる。 【授業内容】 ①大脳、小脳、脳幹 ②脊髄	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 脳と脊髄の構造、機能を理解し、説明ができる。大脳、小脳、脊髄などそれぞれの構造の説明ができる。 【授業内容】	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 脳血管障害の分類、症状などを知り、治療やケア、合併症などを説明することができる。 【授業内容】	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 脳神経の構成を学び、それぞれの神経のしくみ、障害された場合の症状を説明することができる。 【授業内容】	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 運動神経経路、ニューロン、反射、麻痺、症状、感覚を感じるしくみや特徴、伝導路や感覚障害のメカニズムを説明できる。 【授業内容】	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 言語障害、高次脳機能障害の症状、病巣、特徴を説明できる。脳組織の生理的老化や認知症の原因、進行過程、疾患を説明できる。 【授業内容】	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 神経系の構造・機能・病態におけるポイント、総合的な理解を再確認する。 【授業内容】 ①神経系のまとめ ②定期試験		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	臨床心理学Ⅱ Clinical psychologyⅡ	必修選択	必須	年次	2	担当教員	柳　忠宏
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 月曜　6限

【実務経験】
臨床心理士、公認心理師。中学・高等学校の教諭として12年の教育臨床経験がある。専門学校のスクールカウンセラーとして、6年の心理臨床経験がある。

【授業の学習内容】
国家試験の読解を通じて、臨床実践にかかわる心理学の理論について、体系的に総括する。
国家試験の解法を通じて、臨床場面での素養を醸成してほしい。

【到達目標】
心の特性や疾患、援助に役立つ理論について国家試験の読解を通じて説明できる。

【使用教科書・教材・参考書】
「言語聴覚士のための心理学」医歯薬出版
国家試験の過去問題は、随時教員が提示する。

【授業外における学習】
心理学の専門的用語がでてくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。
分からない用語は、ネット検索を用いて調査してもよい。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 類型論を説明できる。特性論を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、パーソナリティ理論、	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 発達障害を説明できる。不登校、引きこもり、摂食障害、自我同一性の障害を説明できる。 【授業内容】 発達各期における心理臨床	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 精神分析、気分障害、統合失調症を説明できる。心的外傷およびストレス因関連障害、パーソナリティ障害、不安症、強迫症を説明できる。 【授業内容】 異常心理	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 おさらいをし、臨床心理学の理解を深める。知能検査を説明できる。 【授業内容】 中間試験（予定）、臨床心理学的アセスメント	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 知能検査を説明できる。発達検査を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 パーソナリティ検査、面接、行動観察を説明できる。クライエント中心療法、精神分析療法、遊戯療法を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント、心理療法	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 行動療法、認知療法を説明できる。集団心理療法、家族療法を説明できる。 【授業内容】 心理療法	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 臨床心理学のおさらいをし、臨床心理学の理解を深める。 【授業内容】 臨床心理学総括、定期試験（予定）		

【特記事項】
板書したこと等は必ずメモをとること。

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	学習・認知心理学 Learning and cognitive psychology	必修選択	必須	年次	2	担当教員	柳　忠宏
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜　5・6・7限

【実務経験】
臨床心理士、公認心理師。中学・高等学校の教諭として12年の教育臨床経験がある。専門学校のスクールカウンセラーとして、6年の心理臨床経験がある。

【授業の学習内容】
本科目を通じて、臨床実践にかかわる学習・認知心理学の理論について、体系的に学習する。
また、内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、臨床場面での素養を醸成してほしい。

【到達目標】
心理機能の仕組みと働き、ことばや学習・認知機能のメカニズムを説明できる。

【使用教科書・教材・参考書】
言語聴覚士のための心理学　医歯薬出版

【授業外における学習】
心理学の専門的用語がでてくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。
分からない用語は、ネット検索を用いてもよい。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 感覚の種類、感覚可能範囲と感度、物理量と心理量を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、感覚	9	【到達目標】 概念、問題解決、推論を説明できる。 【授業内容】 思考・知識
2	【到達目標】 感覚内の次元、順応と対比・同化、感覚遮断を説明できる。 【授業内容】 感覚	10	【到達目標】 認知の偏り、表象、知識の構造を説明できる。 【授業内容】 思考・知識
3	【到達目標】 色覚知覚、空間知覚、形態知覚、運動知覚、知覚の恒常性を説明できる。 【授業内容】 知覚・認知	11	【到達目標】 非言語的・前言語的コミュニケーション、象徴・記号・言語を説明できる。 【授業内容】 言語
4	【到達目標】 知覚の統合・相互作用、知覚運動協応、注意、オブジェクト認知、認知地図を説明できる。 【授業内容】 知覚・認知	12	【到達目標】 言語使用と知識、言語理解と産出を説明できる。 【授業内容】 言語
5	【到達目標】 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、弁別学習、技能学習、社会的学習を説明できる。 【授業内容】 学習	13	【到達目標】 印象形成、対人魅力を説明できる。 【授業内容】 対人認知
6	【到達目標】 学習の転移、動機づけ、要求水準、学習性無力感を説明できる。 【授業内容】 学習	14	【到達目標】 ステレオタイプ、認知的不協和を説明できる。 【授業内容】 対人認知
7	【到達目標】 記憶過程、記憶の分類を説明できる。 【授業内容】 記憶	15	【到達目標】 定期試験でおさらいをし、学習・認知心理学の理解を深める。 【授業内容】 定期試験
8	【到達目標】 中間試験でおさらいをし、学習・認知心理学の理解を深める。 記憶範囲・記憶容量、忘却を説明できる。 【授業内容】 中間試験、記憶		

【特記事項】
板書したこと等は必ずメモをとること。

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	心理測定法 Psychological Measurement	必修選択	必須	年次	2	担当教員	柳　忠宏
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜　5限

【実務経験】
臨床心理士、公認心理師。中学・高等学校の教諭として12年の教育臨床経験がある。専門学校のスクールカウンセラーとして、6年の心理臨床経験がある。

【授業の学習内容】
本科目を通じて、臨床実践にかかわる心理測定法の理論について、体系的に学習する。
また、内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、臨床場面での素養を醸成してほしい。

【到達目標】
心理機能の科学的な測定法や検証法を説明できる。

【使用教科書・教材・参考書】
言語聴覚士のための心理学　医歯薬出版

【授業外における学習】
心理学の専門的用語がでてくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。
分からない用語は、ネット検索を用いてもよい。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 閾値の測定を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、心理物理学的測定法	9	【到達目標】 質問紙法を説明できる。 【授業内容】 調査法
2	【到達目標】 尺度水準、誤差を説明できる。 【授業内容】 心理物理学的測定法	10	【到達目標】 サンプリングを説明できる。 【授業内容】 調査法
3	【到達目標】 標準化を説明できる。 【授業内容】 テスト理論	11	【到達目標】 記述統計を説明できる。 【授業内容】 データ解析法
4	【到達目標】 妥当性、信頼性を説明できる。 【授業内容】 テスト理論	12	【到達目標】 推測統計を説明できる。 【授業内容】 データ解析法
5	【到達目標】 因子分析を説明できる。 【授業内容】 テスト理論	13	【到達目標】 検定を説明できる。 【授業内容】 データ解析法
6	【到達目標】 評定法、順位法を説明できる。 【授業内容】 尺度構成法	14	【到達目標】 検定を説明できる。 【授業内容】 データ解析法
7	【到達目標】 一対比較法、比率尺度構成法、多次元尺度構成法を説明できる。 【授業内容】 尺度構成法	15	【到達目標】 定期試験でおさらいをし、心理測定法の理解を深める。 【授業内容】 期末試験
8	【到達目標】 中間試験でおさらいをし、心理測定法の理解を深める。 質問紙法を説明できる。 【授業内容】 中間試験、調査法		

【特記事項】
板書したこと等は必ずメモをとること。

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	言語学 Linguistics	必修選択	必修	年次	2	担当教員	武田　桃子
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜　　6、7限

【実務経験】
言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。

【授業の学習内容】
言語の概念を知り、文法や意味などを科学的な視点から理解する。

【到達目標】
言語学の様々な分野における基礎知識を身につけ、科学的に言語を分析する視点を身につける。

【使用教科書・教材・参考書】
「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」 医学書院□
□

【授業外における学習】
・予習と復習に力を入れる
・疑問を放置しない

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 ことばとは何か、言語学で学ぶ内容を理解する 【授業内容】 言語学の基礎①	9	【到達目標】 統語範疇、統語構造を理解する 【授業内容】 統語論①
2	【到達目標】 記号体系と言語について理解する 【授業内容】 言語学の基礎②	10	【到達目標】 生成文法、文法カテゴリーを理解する 【授業内容】 統語論②
3	【到達目標】 言語の産生を支える性質を理解する 【授業内容】 言語学の基礎③	11	【到達目標】 文法関係、従属節を理解する 【授業内容】 統語論②
4	【到達目標】 日本語の音素を理解する 【授業内容】 音韻論①	12	【到達目標】 語の意味、意味成分、ことばの概念、文の意味を理解する 【授業内容】 意味論
5	【到達目標】 弁別素性や音韻規則を理解する 【授業内容】 音韻論②	13	【到達目標】 文の情報構造、直示表現を理解する 【授業内容】 語用論
6	【到達目標】 音素分析を理解する 【授業内容】 音韻論③	14	【到達目標】 言語学と言語聴覚療法のつながり、構文検査の概要を理解する 【授業内容】 言語学と臨床
7	【到達目標】 講義の前半の振り返りをし、知識を定着させる 文法論の概要、形態素、語形変化を理解する 【授業内容】 中間テスト、形態論①	15	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、言語学についての理解を定着させる 【授業内容】 定期試験、講義の振り返り
8	【到達目標】 語形成、語の内部構造を理解する 【授業内容】 形態論②		

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	音声学　Ⅱ phonetics　Ⅱ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	山口　望
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 水曜　　6限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
言語聴覚士として、亜急性期～回復期の患者様へリハビリテーションを提供。また、音声外来や耳鼻咽喉科での勤務経験も持つ。

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**
実際の臨床に携わってきた経験を活かし、音声学が言語聴覚療法において重要な科目であることを実感できるような授業を行う。
日本語の音声を中心に、音声を生成する仕組みや音声の特徴、それらに必要な知識を定着させる。

【到達目標】
音声が産生される仕組みや、母音と子音の産生方法、表記方法についての知識を定着させる。
アクセントやイントネーション等、話し言葉の特徴や、モーラや音節など日本語の音声の特徴についての知識を定着させる。
過去問題や模試問題を解きながら、音声学の基本知識を復習し、国家試験に必要な力を身に付ける。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」医学書院
参考書：斎藤純男著「日本語音声学入門」三省堂

【授業外における学習】
過去問題の解答だけでなく他の選択肢についても知識を深め、多様な設問に対応できるよう学習に励む。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 発声発語器官の構造、発声の仕組みを定着させる 【授業内容】 発声発語器官	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 構音の仕組みなどを定着させる 【授業内容】 調音器官と調音方法、構音の仕組み	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 国際音声記号や子音の特徴を定着させる 【授業内容】 国際音声記号(子音)	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 国際音声記号や母音の特徴を定着させる 【授業内容】 中間テスト、国際音声記号(母音)	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 分節音、音声連続などの音声現象の知識を定着させる 【授業内容】 分節音、音声連続	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 アクセントやイントネーションの知識を定着させる 【授業内容】 超分節的要素	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 日本語の音声現象や特徴を定着させる 【授業内容】 日本語音声学	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 これまでの講義を振り返り、音声学についての知識を定着させる 【授業内容】 定期テスト、総復習		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	音響学・聴覚心理学 Acoustics and Audio Psychology	必修選択	必修	年次	2	担当教員	奥山 裕太
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜　6限

【実務経験】
言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。

【授業の学習内容】
前半で、音の物理的な性質や音声生成、音響理論、言語音の音響的特徴、音声の音響分析などを、後半で、音の知覚や心理学について学習する。

【到達目標】
音の構成を物理化学的に分析する音響学や、音の心理的側面について学習する。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書:「言語聴覚士のための音響学　2訂版」 医歯薬出版
参考書:「ビジュアル音声学」 三省堂、 配布配布

【授業外における学習】
・予習と復習に力を入れる
・疑問を放置しない

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 音について、音の性質（周波数、周期、波長、音速）、音の種類を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面①	9	【到達目標】 アクセントイントネーション、ピッチ曲線を理解する。 【授業内容】 超分節的要素の音響的特徴と知覚
2	【到達目標】 スペクトル、音の要素（音の強さと音圧、デシベル）を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面②	10	【到達目標】 音声の音響分析について学び、理解する。 【授業内容】 音声分析
3	【到達目標】 音圧レベルの定義、音圧レベルの計算を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面③	11	【到達目標】 音の大きさと音圧の関係を理解し、音の大きさの尺度について説明ができる。 【授業内容】 音の心理物理学①
4	【到達目標】 聴力レベル、感覚レベルの定義、音圧レベルとの関係性を理解する。 【授業内容】 音の物理的側面④	12	【到達目標】 音の高さと音の周波数成分の関係を理解し、音の高さの尺度について説明ができる。 【授業内容】 音の心理物理学②
5	【到達目標】 共鳴、音響管、声道共鳴、定在波を理解する。 【授業内容】 音響管の周波数特性	13	【到達目標】 音声を聴覚心理学的視点から理解する。 音の同時処理や継時的処理について理解する。 【授業内容】 音声の知覚、マスキング
6	【到達目標】 線形システム、ソースフィルタ理論を理解する。 【授業内容】 音声生成の音響理論	14	【到達目標】 音の聞こえ、両耳効果を理解する。また、環境による聞こえについて理解する。 【授業内容】 両耳の聞こえ、環境と聴覚
7	【到達目標】 講義の前半の知識の定着 基本周波数、母音などの言語音の音響的特徴を理解する。 【授業内容】 中間テスト、言語音の生成と知覚①	15	【到達目標】 講義で学んだ知識の定着 【授業内容】 定期試験、授業の振り返り
8	【到達目標】 子音の音響特性、構音方法、音声学との関わりを理解する。 【授業内容】 言語音の生成と知覚②		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	言語発達学Ⅱ Speech Development Ⅱ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	小澤 佳夜子　山本悠里
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後　期 水曜　　5限

【実務経験】
大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。

【授業の学習内容】
言語発達障害児に、言語発達検査や知能検査を実施した経験を持つ教員が、定型発達時や正常な言語発達ポイントを解説する。
また、その国家試験問題を実施し解説する。

【到達目標】
これまでの講義で学んだ小児の先天性・後天性の疾患の概要や特徴、小児の関連法規などを復習し、説明出来る。
定型発達時の正常な言語発達や社会性・運動・身辺自立などの正常発達を復習し説明できる。
また、その国家試験の過去問を解き、国家試験に合格できる知識を身につける事ができる。

【使用教科書・教材・参考書】
・「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学　第3版」医学書院
・「言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学第3版」 医学書院

【授業外における学習】
毎回授業後に学んだ内容の復習をする

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 小児の定型発達や代表的な小児疾患（先天性・後天性）を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 小児の定型発達。アプガースコアについて。熱性痙攣やその他の小児疾患について総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 小児の代表的な小児疾患（先天性・後天性）や遺伝疾患について理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 てんかんの概要や種類。単一遺伝子病・染色体異常などの概要や発達特徴について総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 児童福祉に関連する法規や予防接種について理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 関係法規（児童福祉法や学校保険安全施行規則など）や予防接種の概要などの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 中間テスト。乳幼児検診の概要についての総復習。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 中間テスト。乳幼児検診の種類、各年齢ごとのポイントの復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 発達の全体像を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 前言語期の言語・コミュニケーションの発達特徴などの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 発達の全体像を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 幼児期の言語・コミュニケーションの発達特徴などの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 発達の全体像を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 学童期期の言語・コミュニケーションの発達特徴などの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数 89～80点＝B評価
点数 79～70点＝C評価
点数 69～60点＝D評価
点数 59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	社会保障制度・関連法規Ⅱ Social Security System・Related Laws Ⅱ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	髙橋　均
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後　期 月曜　　６限

【実務経験】
県職員として、児童相談所、県立病院、リハビリテーションセンター などでソーシャルワーカー等の社会福祉・医療関連37年間の実務経験を持つ。

【授業の学習内容】
児童福祉、障害者福祉、医療等の分野で、ソーシャルワーカーやケアワーカーとしての実務経験と、社会福祉士(1997年資格取得)としての実戦経験を活かし、さらに社会福祉士国家試験の受験対策の経験を活かしながら授業を進める。

【到達目標】
・社会福祉、社会保障制度、関連法規について、これまでの学習を振り返りながら理解を深め、専門職としての実践に役に立つ知識を身につける。
・国家試験に対応できる力を身につけ、確実に合格する。

【使用教科書・教材・参考書】

【授業外における学習】
普段から社会保障制度問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースをチェックする。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 年金制度、労働保険制度を理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 公的年金制度、労働保険制度	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 医療保険制度と医療制度を理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 医療保険制度 医療制度の概要	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 社会福祉の法律、機関、施設について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 社会福祉の法体系、実施機関、社会福祉施設	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 社会福援助技術、福祉医療の専門職について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 高齢者福祉と介護保険制度について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 高齢者福祉と介護保険制度 地域福祉と地域包括ケアシステム	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 障害者(児)福祉制度について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 障害者(児)福祉制度	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 公的扶助(生活保護制度)、児童福祉について理解し、国試問題に解答できる。 【授業内容】 公的扶助(生活保護制度) 児童家庭福祉(母子福祉)制度	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 これまでの学習の成果を確認する。 【授業内容】 定期試験とその解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)

科目名（英）	リハビリテーション概論 Introduction of Rehabilitation	必修選択	必須	年次	2	担当教員	芳野・下岡・長島
学科・コース	言語聴覚士科 Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜　５，６限

【実務経験】
芳野：理学療法士として病院・診療所にて実務経験21年。急性期から生活期まで言語聴覚士を含めた多職種との連携した経験がある。
下岡：作業療法士として病院・介護老人保健施設等で実務経験21年半。2004年から多職種連携を学び、ST上は糖尿病患者の対応や摂食嚥下で連携している。

【授業の学習内容】
リハビリテーションの専門職である言語聴覚士としてリハビリテーションとは何か概念や歴史等を学ぶ。さらに言語聴覚士として連携が必須である他職種の業務内容および連携する場面などを各専門職種として経験豊富な講師から実践例を挙げつつ学ぶ。加えて、近年必要性が高まってきている多職種連携についても、ロールプレイなどの実践を通しながら理解する。本授業は複数の講師によるオムニバス授業である。

【到達目標】
・リハビリテーション専門職である言語聴覚士として多職種と連携を行えるために、リハビリテーションの概念・他職種の職域とそれらとの連携について学ぶ。
・リハビリテーションの概念を説明することができる。
・言語聴覚士と関わる他職種の役割・特徴および言語聴覚士との類似点・相違点・多職種と関わる方法・注意点について説明できる。

【使用教科書・教材・参考書】
「リハビリテーションビジュアルブック第2版」
講師によっては配布資料あり

【授業外における学習】
指定教科書を予習を要する。
講師によっては、事前課題を課す。

回	授業概要	回	授業概要
1	【授業単元】リハビリテーション概論（芳野） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 リハビリテーション概念・歴史等の説明ができる。 急性期～生活期リハ・等の様々な領域のリハビリテーションについて説明ができる。	9	【授業単元】理学療法とは・理学療法の資格とその業務（芳野） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 理学療法とは何か・関わる対象者・その方法について説明できる。
2	【授業単元】リハビリテーション概論（芳野） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 リハビリテーション概念・歴史等の説明ができる。 急性期～生活期リハ・等の様々な領域のリハビリテーションについて説明ができる。	10	【授業単元】理学療法士と言語聴覚士との連携（芳野） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 理学療法士と言語聴覚士の連携について説明できる。
3	【授業単元】リハビリテーション概論（芳野） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 障害およびICFについて説明ができる。 リハビリテーションにかかわる社会制度について説明できる。	11	【授業単元】作業療法とは（下岡） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 作業療法の定義、作業療法とは何か・関わる対象者・その方法について説明できる。
4	【授業単元】リハビリテーション概論（芳野） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 障害およびICFについて説明ができる。 リハビリテーションにかかわる社会制度について説明できる。	12	【授業単元】作業療法士と言語聴覚士との連携（下岡） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 作業療法士と言語聴覚士の連携について説明できる。
5	【授業単元】多職種連携（下岡） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 多職種連携のとは何か・その歴史・必要性・必要な能力について説明ができる。	13	【授業単元】小児領域のリハビリテーション（長島） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの役割が説明できる。
6	【授業単元】多職種連携（下岡） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 各職種に分かれロールプレイを行い、連携を実践することができる。 他の職種の役割を理解し説明できる。	14	【授業単元】小児領域のリハビリテーション（長島） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの実践について説明できる。
7	【授業単元】小児領域のリハビリテーション（長島） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの役割が説明できる。	15	【授業単元】 定期試験、総復習（芳野） 【授業形態】 筆記試験、講義 【到達目標】 これまでの講義内容の習得状況を確認し総復習をすることで、リハビリテーションの概念および多職種連携について明確に説明できる。
8	【授業単元】小児領域のリハビリテーション（長島） 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児領域におけるリハビリテーションの実践について説明できる。		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	地域言語聴覚療法学 Community-based Speech and hearing therapy	必修選択	必須	年次	2	担当教員	吉田　直行
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 月曜　　5限

【実務経験】
訪問看護ステーションと歯科クリニックで言語聴覚士として在宅分野でのリハビリを提供してきた経験を持つ

【授業の学習内容】

在宅分野で得た経験を活かして関連する制度やリハビリテーションの実際を未経験の学生にも理解しやすく授業を行う。特にリハビリテーションに関わることに関しては、症例検討等を行い、グループディスカッションで学生のアウトプットする場を設け、理解を深めていく。

【到達目標】
・地域言語聴覚療法とは何かを知り、地域で働くSTとしての役割を考える。・介護予防における言語聴覚士の取り組みを理解する。
・地域包括ケアシステムとそれに関連する制度について理解する。・地域言語聴覚療法における情報収集から訓練までの流れ、それに必要な連携・リスク管理等について理解する。・地域言語聴覚療法の実際について、症例を通して理解を深める。

【使用教科書・教材・参考書】
「地域言語聴覚療法学」医学書院
配布資料

【授業外における学習】
基本的な評価方法や訓練方法などは予め予習してきもらう。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 地域言語聴覚療法とは何かを知り、地域で働くSTとしての役割を理解する。 【授業内容】 地域言語聴覚療法とは・地域言語聴覚療法の実際 地域における連携・制度・特徴	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 地域包括ケアシステムとそれに関連する制度について理解する。 【授業内容】 地域包括ケアシステム・医療関連のシステムと制度 介護関連のシステムと制度	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 地域包括ケアが必要になる社会的背景を知り、介護予防における言語聴覚士の取り組みを理解する。 【授業内容】 地域包括ケアにおける言語聴覚療法 介護予防における言語聴覚療法	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 地域言語聴覚療法におけるサービスと役割について理解する。 【授業内容】 外来・通所・入所・在宅における言語聴覚療法	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 地域言語聴覚療法における情報収集から訓練までの流れ、それに必要な連携・リスク管理等について理解する。 【授業内容】 情報収集と評価・支援計画および訓練・指導・援助・職種間連携 リスク管理	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 地域における連携について関連職種を知り、連携の原則を理解する。 【授業内容】 関連職種と言語聴覚士の役割・連携の種類、原則	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 地域言語聴覚療法の実際について、症例を通して理解を深める。 【授業内容】 失語症・摂食嚥下障害	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 定期テストを行い理解度を確認する。振り返りを行い理解できなかった部分を復習する。 【授業内容】 定期テスト・解答解説＆振り返り		

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	言語聴覚障害診断学Ⅳ Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅣ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	平野　祐紀
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前　期 月曜　　6・7限

【実務経験】
大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。

【授業の学習内容】
医療機関や地域リハビリテーションの現場での臨床経験にもとづき、知識だけでなく現場で必要とされるノウハウ等も伝えながら
国家試験に向けての対策を行っていく。

【到達目標】
・前半では実習対策として、観察のポイント、検査の目的、検査の解釈、ゴール・プログラムの立案、症例報告書の書き方など、実践的な力の向上を図る。
・後半では国家試験対策として、主に失語症、高次脳機能障害に関して取り組み、知識の定着を図る。

【使用教科書・教材・参考書】
「明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断-成人編」
医学と看護社

【授業外における学習】
毎回の授業後に復習を行う。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 意識・注意レベルから捉え、適切に観察することができる 【授業内容】 初回面接・スクリーニングについて	9	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る①
2	【到達目標】 症状から、目的に合った検査を検討することができる 【授業内容】 各検査の目的について①	10	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る②
3	【到達目標】 症状から、目的に合った検査を検討することができる 【授業内容】 各検査の目的について②	11	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る③
4	【到達目標】 検査結果から、適切な解釈をすることができる 【授業内容】 失語症検査の解釈について	12	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 高次脳機能障害に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る①
5	【到達目標】 検査結果から、適切な解釈をすることができる 【授業内容】 高次脳機能検査の解釈について	13	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 高次脳機能障害に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る②
6	【到達目標】 ゴール, プログラムを考えることができる 【授業内容】 症例呈示し, 検討する	14	【到達目標】 国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 高次脳機能障害に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識の定着を図る③
7	【到達目標】 症例報告書を作成することができる 【授業内容】 症例報告書の書き方について	15	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する 【授業内容】 定期試験・解説
8	【到達目標】 7回までの授業内容を理解し、知識を定着させる 【授業内容】 中間試験・解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	言語聴覚障害診断学Ⅴ Diagnosis of Speech and hearing Disabilities Ⅴ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	平野　祐紀
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月・金曜　　5限

【実務経験】

【実務経験】
大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。

これまでの授業で習った内容を復習し、問題を解く中で知識を定着させ、国家試験に対応できるレベルにまで引き上げる。問題解決の過程を言語化し話し合うアクティブラーニングを通じて、より個人の記憶に残るように学習を進める。解答や分からない言葉を調べて覚えるようにし、答えの丸暗記にならないようにしてほしい。

【到達目標】

・研究法の流れや種類が分かる。
・言語聴覚障害総論、形成外科学、器質性構音障害、機能性構音障害、吃音について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎に異なるため、コマシラバスを確認ください。

【授業外における学習】
国家試験過去問題演習では、言語聴覚士国家試験必修チェック（文光堂）を読んでから問題を解くと良い。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 研究の進め方が分かる。 【授業内容】 研究の進め方や学会発表の仕方について学ぶ。	9	【到達目標】 形成外科学について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。① 【授業内容】 形成外科学の過去問題を解く。
2	【到達目標】 研究の種類が分かる。 【授業内容】 研究の種類について学び、研究テーマがどのような研究方法であれば実現できるか考える。	10	【到達目標】 形成外科学について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。② 【授業内容】 形成外科学の過去問題を解く。
3	【到達目標】 小児の地域支援の概要が分かる。 【授業内容】 訪問リハビリテーション、通所支援、特別支援教育、低出生体重児について学ぶ。	11	【到達目標】 器質性構音障害について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 器質性構音障害の過去問題を解く。
4	【到達目標】 言語聴覚障害総論について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。① 【授業内容】 言語聴覚障害総論の過去問題を解く。	12	【到達目標】 機能性構音障害について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 機能性構音障害の過去問題を解く。
5	【到達目標】 言語聴覚障害総論について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。② 【授業内容】 言語聴覚障害総論の過去問題を解く。	13	【到達目標】 吃音について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。① 【授業内容】 吃音の過去問題を解く。
6	【到達目標】 言語聴覚障害総論について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。③ 【授業内容】 言語聴覚障害総論の過去問題を解く。	14	【到達目標】 吃音について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。② 【授業内容】 吃音の過去問題を解く。
7	【到達目標】 統計や検定について学び、国家試験に対応できる力を身につける。① 【授業内容】 統計や検定の過去問題を解く。	15	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。
8	【到達目標】 統計や検定について学び、国家試験に対応できる力を身につける。② 【授業内容】 統計や検定の過去問題を解く。中間テストを行う。		

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	失語症　Ⅲ Aphasia　Ⅲ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	平野　祐紀
学科・コース	言語聴覚士Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後　期 月曜　　7限

【実務経験】
大学病院、総合病院、通園施設、発達クリニックにて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。

【授業の学習内容】
医療機関や地域リハビリテーションの現場での臨床経験にもとづき、知識だけでなく現場で必要とされるノウハウ等も伝えながら、国家試験に向けての対策を行っていく。

【到達目標】
・前半では実習対策として、失語症についての知識の整理、検査練習、検査の解釈、訓練の立案など行い、実践的な力の向上を図る。
・後半では国家試験対策として、出題頻度の高いキーワードをもとに知識の定着を図る。

【使用教科書・教材・参考書】
「標準言語聴覚障害学 失語症 第3版」医学書院

【授業外における学習】
毎回授業後に学んだ内容の復習をする

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 失語症状について、理解し説明することができる 【授業内容】 失語症状について解説する	9	【到達目標】 失語症の症状・各タイプの特徴を理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症の症状・各タイプに関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する
2	【到達目標】 失語症に随伴しやすい症状について、理解し説明することができる 【授業内容】 失語症随伴しやすい症状について解説する	10	【到達目標】 「発語失行」「皮質下性失語」について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「発語失行」「皮質下性失語」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する
3	【到達目標】 失語症の各タイプについて、理解し説明することができる 【授業内容】 失語症の各タイプについて解説する	11	【到達目標】 「小児失語」「交叉性失語」について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「小児失語」「交叉性失語」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する
4	【到達目標】 失語症検査について、それぞれの目的を理解し説明することができる 【授業内容】 失語症検査について解説する	12	【到達目標】 「原発性進行失語」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する 【授業内容】 「原発性進行失語」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する
5	【到達目標】 検査結果から、問題点を挙げることができる 【授業内容】 問題点を検討する	13	【到達目標】 「純粋型」「失読失書」について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「純粋型」「失読失書」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する
6	【到達目標】 失語症の訓練・支援について、理解し説明することができる 【授業内容】 失語症の訓練・支援について解説する	14	【到達目標】 失語症検査について理解し、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 失語症検査、支援に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する
7	【到達目標】 事例を用いて、必要な検査を選択し、ゴールやプログラムを立案することができる 【授業内容】 事例検討	15	【到達目標】 定期試験を通しこれまでの学習内容と習得度を確認する 【授業内容】 定期試験・解説
8	【到達目標】 7回までの授業内容を理解し、知識を定着させる 【授業内容】 中間試験・解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数 89～80点＝B評価
点数 79～70点＝C評価
点数 69～60点＝D評価
点数 59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	運動障害性構音障害Ⅲ DysarthriaⅢ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤一彦
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜　7限

【実務経験】
回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、運動障害性構音障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ

【授業の学習内容】
回復期リハビリテーション病院で運動性構音障害患者にリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、国家試験対策を目的に、出題頻度の高い、タイプ分類、評価法、訓練について、重点的に講義と実技を行う講座を開講する。具体的には、運動性構音障害の基礎知識の振り返りと、評価と治療、訓練法の知識の講義と実技の習得を行う。

【到達目標】
・国家試験問題に正答できる知識を身につける
・各検査を正しく理解し、評価できる為の知識と技術を身につける
・各訓練の効果を正しく理解し、適応する対象に実施することができる

【使用教科書・教材・参考書】
・標準言語聴覚障害学「発声発語障害学第2版」医学書院
・ディサースリア臨床標準テキスト　医歯薬出版株式会社

【授業外における学習】
前の講義で学習した内容の復習を行う、特に暗記を指示した内容を覚えてくる。

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う①	9	【到達目標】 障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状を説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状をまとめ、運動障害性構音障害の障害像を総復習する
2	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う②	10	【到達目標】 障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状を説明することができる 【授業内容】 9 回目でまとめた内容を発表する
3	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う③	11	【到達目標】 AMSDの概要、検査方法、評価の仕方について説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：AMSDの概要と実施方法、評価方法を復習する
4	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う④	12	【到達目標】 発話特徴抽出検査の概要と実施方法、評価方法を説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：発話特徴抽出検査の概要と実施方法、評価方法を復習する
5	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う⑤	13	【到達目標】 発声発語器官にかかわる神経、筋について説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：発声発語器官にかかわる神経、筋について総復習する
6	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う⑥	14	【到達目標】 AACについて説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：AACについて総復習する
7	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う⑦	15	【到達目標】 後半の国家試験要点講義にて学んだ知識を用いて模擬問題を解くことができる 【授業内容】 定期試験・解説
8	【到達目標】 前半で学んだ内容について理解して説明できる 【授業内容】 中間試験・解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	言語発達障害学Ⅲ Language Development DisordersⅢ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中澤　裕也
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜　6・7限

【実務経験】
言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ポーテージ早期教育プログラム認定相談員。

【授業の学習内容】
言語発達障害児に対して、言語聴覚療法を実践してきた教員が自身の経験を含めて、質疑を繰り返し知識の定着を目指す。
また、障害像をより明確にする為に、DVD教材を活用し、視覚的に理解を深める。

【到達目標】
・注意欠陥・多動性障害（ADHD）の評価・診断に必要な情報や検査について理解し、説明出来る。
・脳性麻痺の評価・診断に必要な情報や検査について理解し、説明出来る。
・各種言語発達検査や知能検査法の適応年齢や概要・特徴を把握し、説明する事ができる。
・各検査の実施手順を理解し、説明や実施する事ができる。

【使用教科書・教材・参考書】
「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学　第2版」 医学書院
配布資料

【授業外における学習】
専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害（ADHD）の定義・概要を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの定義・言語・コミュニケーションの特徴。	9	【到達目標】 脳性麻痺児の神経生理学的アプローチであるボバーズアプローチについて学び、理解する。 【授業内容】 川名先生による「ボバースアプローチ」についての講義・演習。
2	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害（ADHD）の評価・支援を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの評価（検査法の概要）と具体的な支援方法。	10	【到達目標】 脳性麻痺児の神経生理学的アプローチであるボバーズアプローチについて学び、理解する。 【授業内容】 川名先生による「ボバースアプローチ」についての講義・演習。
3	【到達目標】 脳性麻痺の動画から臨床像や特徴を把握する。また、グループで話し合い、ポイントを確認・共有する。 【授業内容】 動画視聴（脳性麻痺） グループワーク（情報の共有・グループで発表）	11	【到達目標】 知能検査法である、田中ビネーⅤ・WPSSI-Ⅲについての概要と、実施方法を学び、説明する事が出来る。 【授業内容】 田中ビネーⅤ・WPSSI-Ⅲについての概要と実施方法について。 検査内容の動画視聴。
4	【到達目標】 脳性麻痺・重複障害の定義・原因や脳性麻痺における言語発達障害の概要と病型による言語発達障害の特徴を学び説明できる。 【授業内容】 脳性麻痺・重複障害の定義・原因について。 言語発達障害の概要と病型による言語発達障害の特徴。	12	【到達目標】 知能検査法である、KABC-Ⅱ・DN -CASについて概要・特徴を理解し、説明出来る。また、検査結果の解釈について理解し、説明出来る。 【授業内容】 KABC-Ⅱ・DN -CASについての概要と実施方法について。
5	【到達目標】 脳性麻痺における言語発達障害の概要と病型による言語発達障害の特徴を学び、説明できる。 【授業内容】 病型別の麻痺の特徴や、言語コミュニケーションの特徴について。 （流暢性など）	13	【到達目標】 乳幼児から就学前の子どもの言語・コミュニケーション発達の評価法であるLCスケールについて、その概要と方法を理解し、説明出来る。 【授業内容】 LCスケールについての概要と実施方法について。
6	【到達目標】 脳性麻痺の評価の概要・検査の種類や注意事項を目的等を学び、説明できる。 【授業内容】 評価・検査の種類や注意事項を目的について。	14	【到達目標】 子どもの会話能力の評価法である質問一応答関係検査の概要や実施方法・解釈を理解し、説明出来る。 【授業内容】 質問一応答関係検査の概要や実施方法・解釈のポイント。
7	【到達目標】 拡大・代替コミュニケーション（AAC）について、定義と概要や評価・支援法を学び、説明できる。 【授業内容】 AACの定義と概要や評価・支援法について。ローテクとハイテクの違い。VOCAの使用場面について。	15	【到達目標】 講義内容についての定期試験を実施し、知識の定着を図る。 【授業内容】 定期試験
8	【到達目標】 これまでの講義内容の復習し、内容を理解する。 中間テスト。 【授業内容】 中間テスト。		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	言語発達障害学Ⅳ Language Development DisordersⅣ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	室田　由美子　中澤　裕也
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月・木・金曜　5・6限

【実務経験】
言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ポーテージ早期教育プログラム認定相談員。

【授業の学習内容】
言語発達障害児に、言語発達検査や知能検査を実施した経験を持つ教員が、検査実施上で重要と考えられるポイントを解説する。
また、その経験を生かして実際の事例を紹介し、検査結果の解釈のポイントを解説する。

【到達目標】
これまでの講義で学んだ言語発達障害を呈する障害に関しての基礎知識や評価・支援の方法を復習する。
また、その国家試験の過去問を解き、国家試験に合格できる知識を身につける事ができる。

【使用教科書・教材・参考書】
「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学　第2版」 医学書院
配布資料

【授業外における学習】

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 自閉症スペクトラム障害の定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 自閉症スペクトラムの定義(DSM-5等)、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 知的障害の定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 知的障害の定義(DSM-5等)、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 特異的言語発達障害の定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 特異的言語発達障害の定義、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 中間テスト。言語発達障害の評価・診断に関する知識を理解し、説明出来る。 【授業内容】 中間テスト。評価・検査法の概要。検査結果の解釈の仕方などの復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 学習障害・ADHDの定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 学習障害・ADHD、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 脳性麻痺の定義、特徴や障害の評価・訓練方法を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 脳性麻痺の定義(DSM-5等)、言語コミュニケーションの特徴、評価・訓練方法の総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 言語発達障害への一般的な訓練方法の要点を理解し説明出来る。また、該当する国家試験問題に答えられる。 【授業内容】 発達期に沿った訓練方法の概要の復習。語用論的アプローチ、AACなどの総復習と該当する国家試験過去問題の実施・解説。	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 定期試験 【授業内容】 筆記試験の実施と解答解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	音声障害Ⅱ Dysphonia	必修選択	必修	年次	2	担当教員	大沢良輔
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	演習	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 金曜　6.7限

【実務経験】
医療機関の職員として、医師から指示を受け音声障害分野に携わる。

【授業の学習内容】
音声障害の種類と内容、検査法、及び治療・訓練の理念とその方法を理解してほしい。そのためにも、難解な専門用語や理論を現場経験で身につけた経験を生かし独自の事例や知識を生かして独自資料にまとめ使用すると共に、具体的でわかりやすい質疑を繰り返し、記憶の定着を図る授業を行なっていく。その他、海外の音声治療に精通した方々をお呼びしセミナーを開催した経験から、言語聴覚士の役割について授業を展開する。

【到達目標】
音声障害の評価を理解したうえで間接訓練及び症状対処的音声治療に加え包括的音声治療を理解し実践する。また、その他の取り組みである薬物療法・無喉頭音声・外科的治療を理解する。

【使用教科書・教材・参考書】
使用教科書：発声発語障害学第3版　医学書院。参考書：言語聴覚士のための音声障害学　医歯薬出版。

【授業外における学習】
専門用語が出てくるので事前学習をきちんとし、授業に備える。

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 問診と面接練習から開始し声の異常を検出できるようになる。 【授業内容】 音声障害の評価（実技練習）	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 発声行動の行動変容として声の衛生指導の必要性や音声治療の流れを理解する。また、適応条件、終了基準を説明できる。 【授業内容】 音声治療の原理	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 音声治療である症状対処的訓練の特徴を理解し実践できる。 【授業内容】 音声障害の治療（症状対処的訓練）	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 音声治療である包括的訓練の特徴を理解する。 【授業内容】 音声障害の治療（包括的訓練）	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 音声治療である包括的訓練を実践できる。 【授業内容】 音声障害の治療（包括的訓練）を実践	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 音声外科・薬物療法の特徴を理解し説明できる。 【授業内容】 音声外科と薬物療法	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 無喉頭音声としての音源の生成機構と構音器官内へ振動を伝達する方法を整理する。 【授業内容】 無喉頭音声・気管切開とコミュニケーションの問題	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 本試験を通して、音声障害についての理解を定着させる。 【授業内容】 本試験		

【特記事項】
特記事項無し

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	運動障害性構音障害Ⅲ DysarthriaⅢ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤一彦
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜5/6限

【実務経験】
回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、運動障害性構音障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ

【授業の学習内容】
回復期リハビリテーション病院で運動性構音障害患者にリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、国家試験対策を目的に、出題頻度の高い、タイプ分類、評価法、訓練について、重点的に講義と実技を行う講座を開講する。具体的には、運動性構音障害の基礎知識の振り返りと、評価と治療、訓練法の知識の講義と実技の習得を行う。

【到達目標】
・国家試験問題に正答できる知識を身につける
・各検査を正しく理解し、評価できる為の知識と技術を身につける
・各訓練の効果を正しく理解し、適応する対象に実施することができる

【使用教科書・教材・参考書】
・標準言語聴覚障害学「発声発語障害学第2版」医学書院
・ディサースリア臨床標準テキスト　医歯薬出版株式会社

【授業外における学習】
前の講義で学習した内容の復習を行う、特に暗記を指示した内容を覚えてくる。

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う①	9	【到達目標】 障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状を説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状をまとめ、運動障害性構音障害の障害像を総復習する
2	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う②	10	【到達目標】 障害タイプ別に病巣、疾患名、神経症状、発話症状を説明することができる 【授業内容】 9 回目でまとめた内容を発表する
3	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う③	11	【到達目標】 AMSDの概要、検査方法、評価の仕方について説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：AMSDの概要と実施方法、評価方法を復習する
4	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う④	12	【到達目標】 発話特徴抽出検査の概要と実施方法、評価方法を説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：発話特徴抽出検査の概要と実施方法、評価方法を復習する
5	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う⑤	13	【到達目標】 発声発語器官にかかわる神経、筋について説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：発声発語器官にかかわる神経、筋について総復習する
6	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う⑥	14	【到達目標】 AACについて説明することができる 【授業内容】 国家試験要点講義：AACについて総復習する
7	【到達目標】 国家試験を実際に解いてみて、国家試験の問題を解くことができる力をみにつける 【授業内容】 国家試験を解き、その解説を行う⑦	15	【到達目標】 後半の国家試験要点講義にて学んだ知識を用いて模擬問題を解くことができる 【授業内容】 定期試験・解説
8	【到達目標】 前半で学んだ内容について理解して説明できる 【授業内容】 中間試験・解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	嚥下障害Ⅱ DysphagiaⅡ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	室田　由美子
学科・コース	言語聴覚士科 Ⅱ部	授業形態	講義・演習	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 金曜　5限

【教員実務経験】
病院・訪問リハビリテーション・児童発達支援放課後等デイサービス・特別支援学校にて言語聴覚士として勤務した経験を持つ。

【授業の学習内容】
摂食嚥下障害の成人分野と小児分野での幅広い臨床経験を活かし、症例を紹介しながら間接的・直接的嚥下訓練の意義と方法を伝える。また、演習やOSCEなどを取り入れ、実践的な技能の習得を目指す。摂食嚥下障害の当事者や家族や多職種に対し、専門職として適切な治療法を選択でき、その理由を明確に説明できるようになってほしい。

【到達目標】
・間接的嚥下訓練や直接的嚥下訓練の意義や方法が分かり、実施できる。
・小児の嚥下評価と訓練法が分かる。

【使用教科書・教材・参考書】
「摂食嚥下リハビリテーション第3版」 医歯薬出版

【授業外における学習】
教科書該当ページを読んで予習できると良い。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 間接的嚥下訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。① 【授業内容】p195-202 口腔器官の可動域改善や筋力増強訓練について学ぶ。	9	【到達目標】 健常児の摂食嚥下の発達が分かる。小児の嚥下評価が分かる。 【授業内容】p106-112、185-187 哺乳反射、摂食機能発達の8段階、小児の嚥下評価の流れとリスク管理を学ぶ。
2	【到達目標】 間接的嚥下訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。② 【授業内容】p195-198, 202-206 嚥下促通法、咽頭期の改善を目的とした訓練について学ぶ。	10	【到達目標】 標準的な小児の摂食嚥下訓練法が分かる。 【授業内容】p227-236 過敏の除去、バンゲード法、ガムラビング、咀嚼訓練などの代表的な訓練方法を学ぶ。
3	【到達目標】 間接的嚥下訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。③ 【授業内容】p202-211 嚥下手技、バルーン拡張法、電気刺激法、藤島式嚥下体操について学ぶ。	11	【到達目標】 液体摂取の訓練法が分かる。小児の症例検討ができる。 【授業内容】 事例を通して、小児の摂食嚥下評価と今後の方針を立案する。
4	【到達目標】 直接的嚥下訓練の訓練意義や方法を理解し、実施できる。 【授業内容】p202-211 シャキア法、息こらえ嚥下、努力嚥下、バルーン拡張法などの訓練法を演習をまじえて学ぶ。	12	【到達目標】 誤嚥性肺炎・窒息・気管切開管理のリスク管理が分かる。 【授業内容】p252-263 肺炎や窒息の治療や応急処置を学ぶ。気管カニューレの仕組みや種類について学ぶ。
5	【到達目標】 摂食嚥下の間接訓練と直接訓練について復習する。 【授業内容】 間接的・直接的嚥下訓練の概要について、ワークシートにまとめる。	13	【到達目標】 栄養管理や嚥下食の概要が分かる。 【授業内容】p266-282 栄養状態の評価や胃瘻からの半固形化法について学ぶ。嚥下調整食やとろみ調整食品について学ぶ。
6	【到達目標】 食具の工夫について理解する。呼吸訓練の意義と方法を理解し、実施できる。 【授業内容】p219-220, 226-227 ノーズカットコップ、すくいやすい皿、口すぼめ呼吸、横隔膜呼吸、ハフィングなどについて学ぶ。	14	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、臨床実習や国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 これまでの学習内容について、問題を解きながら復習する。
7	【到達目標】 口腔ケアの留意点が分かる。「日本摂食嚥下リハ学会 訓練法のまとめ2014」の概要が分かる。 【授業内容】p189-194 口腔ケアについて学ぶ。開口訓練、舌接触補助床（PAP）、軟口蓋挙上装置（PLP）などについて学ぶ。	15	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。
8	【到達目標】 ベッド上での姿勢調整ができる。直接訓練が安全に行える。 【授業内容】 OSCE（ベッド上でのトロミ水の直接訓練）を実施する。		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	嚥下障害Ⅲ DysphagiaⅢ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	矢澤一彦
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜　6限

【実務経験】
回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で、9年間、摂食嚥下機能障害の患者様へのリハビリテーション経験を持つ

【授業の学習内容】
回復期リハビリテーション病院で摂食嚥下機能障害患者様にリハビリテーションを行ってきた経験を持つ教員が、国家試験対策を目的に、出題頻度の高い、タイプ分類、評価法、訓練について、重点的に講義と実技を行う講座を開講する。具体的には、摂食嚥下機能障害の基礎知識の振り返りと、評価と治療、訓練法の知識の講義と実技の習得を行う。

【到達目標】
・国家試験問題に正答できる知識を身につける
・各検査を正しく理解し、評価できる為の知識と技術を身につける
・各訓練の効果を正しく理解し、適応する対象に実施することができる

【使用教科書・教材・参考書】
・摂食嚥下リハビリテーション第3版

【授業外における学習】
・授業で学んだ国家試験の問題解答に必要な知識を復習して覚えること

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 「解剖・運動モデル」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「解剖・運動モデル」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する	9	【到達目標】 摂食嚥下にかかわる解剖と生理を理解し適切に説明することができる 【授業内容】 摂食嚥下障害にかかわる解剖と生理 メカニズム、嚥下の神経機構、関連筋群について復習する
2	【到達目標】 「評価(嚥下造影)」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「評価(嚥下造影)」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する	10	【到達目標】 摂食嚥下の簡易検査および総合的検査を理解し適切に実施することができる 【授業内容】 簡易検査、総合的検査について復習する
3	【到達目標】 「評価(嚥下内視鏡)」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「評価(嚥下内視鏡)」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する	11	【到達目標】 嚥下内視鏡・嚥下造影検査について、動画を見て、評価することができる 【授業内容】 嚥下内視鏡・嚥下造影検査について復習する
4	【到達目標】 「訓練」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「訓練」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する	12	【到達目標】 間接嚥下訓練について、復習をして、その対象と実施方法と訓練効果について説明できる 【授業内容】 間接嚥下訓練について復習する
5	【到達目標】 「手術対応」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「手術対応」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する	13	【到達目標】 直接嚥下訓練について、復習をして、その対象と実施方法と訓練効果について説明できる 【授業内容】 直接嚥下訓練について復習する
6	【到達目標】 「発達・加齢」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「発達・加齢」」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する	14	【到達目標】 気管切開の管理と手術的治療について、正しく理解し説明することができる 【授業内容】 気管切開と手術治療について復習する
7	【到達目標】 「栄養」」について適切に説明でき、国家試験に対応できる力を身につける 【授業内容】 「栄養」」に関する過去問題を解き解答を行うことで、知識を復習する	15	【到達目標】 国家試験の模擬問題を解くことができる 【授業内容】 定期試験・解説
8	【到達目標】 全7回までの内容を正しく理解し問題に回答することができる 【授業内容】 中間試験・解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	吃音 Stuttering	必修選択	必修	年次	2	担当教員	湯浅　美琴
学科・コース	言語聴覚士科 Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 水曜　5限

【実務経験】
言語聴覚士として病院等で勤務経験がある。

【授業の学習内容】
教科書で専門用語や基礎的な事項を学びながら、実際の症状を映像や音声で参照することで理解を深めます。症状も様々で当事者の困りごとも多岐にわたる吃音を講師の臨床経験を交えて講義を進めていこうと思います。症状のみに着眼するのではなく、当事者を取り巻く環境を含めた包括的な考え方ができることが大切です。

【到達目標】
吃音をはじめとする流暢性障害の原因、症状の説明ができる。
吃音の評価の方法を知り、具体的な手続きを理解する。
リハビリテーションの方法を知り、その内容を説明できるようになる。

【使用教科書・教材・参考書】
標準言語聴覚障害学－発声発語障害学　第2版（医学書院）、配布資料

【授業外における学習】
事前に教科書を読み、講義の後も復習してください。また、当事者の方の本などを読むこともお勧めします。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 実際の症状を見ながら、流暢性障害とは何かを知り、説明できる。様々ある吃音の原因論を列挙できる。 【授業内容】 流暢性障害の定義、吃音研究の動向、原因論について	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 吃音中核症状、その他の非流暢性、随伴症状、工夫・回避、情緒性反応の説明ができる。 【授業内容】 吃音の症状と非流暢性の症状	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 吃音中核症状、その他の非流暢性、随伴症状、工夫・回避、情緒性反応の説明ができる。 【授業内容】 吃音の症状と非流暢性の症状	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 吃音の評価の中で、主に使われいるものを知り、その目的と方法を理解し、説明できる。実際に体験し、臨床で使える準備をする。 【授業内容】 中間テスト　吃音の評価	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 吃音の評価の中で、主に使われいるものを知り、その目的と方法を理解し、説明できる。実際に体験し、臨床で使える準備をする。 【授業内容】 吃音の評価	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 様々な訓練方法を知り、その目的と方法を理解し、説明できる。社会資源を知り、それらを説明できる。 【授業内容】 吃音の訓練法、社会資源	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 主訴、得られた情報、吃音評価などを踏まえて訓練計画を立て、実施する流れを知り、説明ができる。 【授業内容】 訓練計画の立案と実施	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 吃音の症状、原因、それに対する対応を理解し、全体的なリハビリテーションの方法についての説明ができる。 【授業内容】 定期テスト		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	成人聴覚障害 Auditory Rehabilitation	必修選択	必修	年次	2	担当教員	高須一美、畦地 雄平
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 水・金曜　　5・6限

【実務経験】
企業研修や学校・保育現場、病院、講演会、TV政見放送通訳等。

【授業の学習内容】
現場で使えるコミュニケーション方法の一つとしての「手話」の基礎を伝えていける授業としたい。「見る」だけでなく、「実際にやる授業」実践力を伝えたい。

【到達目標】
簡単なコミュニケーションが、手話でできるようになる。
先天性難聴や中途失聴や老人性難聴などの難聴の影響、情報補償について学ぶ。国家試験で問われる知識を確認する。

【使用教科書・教材・参考書】
手話テキスト　Ⅰ　（必要部分のコピー）
標準言語聴覚障害学－聴覚障害学　第3版 医学書院

【授業外における学習】
その日に学んだことは出来る限りその日に定着する様に心掛ける。わからない事予習は特に必要ないが、授業で覚えた内容は復習して、次回の授業で分からないことは質問出来るようにして欲しい。□
□忘れた事は次回の授業で質問する様に準備して授業に臨む。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 手話とはどのような言語なのか理解する。手話で会話をする時に気を付けることを理解する。コミュニケーション方法の一つとして身に付ける。 【授業内容】 実際に自ら手を動かして、簡単な挨拶が出来るようになる。日常会話で覚えておくと便利な単語をいくつか紹介して使えるようになる。	9	【到達目標】 【授業内容】
2	【到達目標】 名字の表現を覚える。相手に尋ねる・答えるのコミュニケーション技術を習得する。「指文字」の解説。 【授業内容】 学生一人ひとりが、自分の名字を表現出来るようになる。「指文字」を使って名前の表現が出来るようになる。	10	【到達目標】 【授業内容】
3	【到達目標】 時制に関する手話、曜日の表現、数字の表現方法を身に付ける。 【授業内容】 〔今日・来週・一か月前・金曜日等〕の表現を覚え、短文が表現出来るようになる。	11	【到達目標】 【授業内容】
4	【到達目標】 「疑問詞」を覚える簡単なコミュニケーションが手話で出来るようになる。手話以外のコミュニケーション方法についても理解を深める。 【授業内容】 4回の授業の総まとめとして、相手と手話で会話をする技術の基礎を習得する。伝える気持ちの大切さを理解する。	12	【到達目標】 【授業内容】
5	【到達目標】 成人聴覚障害とは何か、聴覚障害が及ぼす影響について理解する 【授業内容】 成人聴覚障害とは	13	【到達目標】 【授業内容】
6	【到達目標】 聴覚障害への検査・支援について理解する 【授業内容】 成人聴覚障害における評価、指導・支援	14	【到達目標】 【授業内容】
7	【到達目標】 視覚聴覚二重障害の原因・特徴を理解する 【授業内容】 視覚聴覚二重障害	15	【到達目標】 【授業内容】
8	【到達目標】 これまで学んだ成人聴覚障害について復習を行い、理解を定着させる。 【授業内容】 定期試験、総復習		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	聴力検査法　Ⅱ Hearing Test Ⅱ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	畦地　雄平
学科・コース	言語聴覚士科 Ⅱ部	授業形態	演習	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜　6、7 限

【教員実務経験】
総合病院、訪問看護リハビリステーション勤務時、急性期及び生活期のリハビリテーション業務の実務経験がある。

【授業の学習内容】
病院、訪問業界で臨床経験を積んできた教員が、聴覚検査について理解が深められるように聴覚検査の検査法を習得できる授業を行う。具体的には、検査前の準備、検査法のイメージを抱けるように実場面の動画を豊富に活用して教授する。また聴覚検査内で取り扱う専門用語を適切に使用して説明できるようになることを目標とする。能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。

【到達目標】
聴力検査の種類、目的、検査方法や手順、結果の解釈が説明することができる。
純音聴力検査・語音聴力検査の正しい方法を学び、実際に実施ができるようなる。

【使用教科書・教材・参考書】
・教科書：「標準言語聴覚検査学　聴覚障害学」 医学出版
・参考書：「聴覚検査の実際　改訂3版」 南山堂

【授業外における学習】
毎回、授業後に復習をすること。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 聞こえの仕組みと解剖学的部位を理解し説明できる。 【授業内容】 聞こえの仕組み	9	【到達目標】 気導聴力検査の準備、予備検査の説明する。気導聴力検査の本検査の方法を説明する。骨伝導検査の方法を説明する。 【授業内容】 純音聴力検査①
2	【到達目標】 音響性耳小骨筋反射検査の目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 音響性耳小骨筋反射検査の目的、方法、結果の解釈を説明する。	10	【到達目標】 マスキングの必要性を説明する。 【授業内容】 純音聴力検査②
3	【到達目標】 自記オージオメトリ、ABLBテスト、SISIテストの目的、、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 内耳機能検査①	11	【到達目標】 検査前の準備、検査の手順の確認を行い実際にGWでオージオメーターを使用し気導聴力検査を実施する。 【授業内容】 純音聴力検査③
4	【到達目標】 DL検査、MCL＆UCL検査、OAEの目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 内耳機能検査②	12	【到達目標】 語音弁別検査の目的、方法、結果の解釈を説明する。 目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 語音聴力検査①
5	【到達目標】 聴性誘発反応検査の目的、方法を説明する。 【授業内容】 聴性誘発反応検査	13	【到達目標】 ティンパノメトリーの目的、方法、結果の解釈を説明する。 【授業内容】 語音聴力検査②
6	【到達目標】 耳鳴検査、成人の選別聴覚検査の目的、方法を説明する。 【授業内容】 耳鳴検査・成人の選別聴力検査	14	【到達目標】 検査前の準備、検査の手順の確認を行い実際にGWでオージオメーターを使用し語音聴力検査を実施する。 【授業内容】 語音聴力検査③
7	【到達目標】 機能性聴覚障害の検査、詐聴の目的、方法を説明する。 視覚聴覚二重障害の検査、評価、コミュニケーション支援の説明する。 【授業内容】 機能性聴覚障害、視覚聴覚二重障害	15	【到達目標】 これまで学んだ内容の総復習を行い、理解を深める。 【授業内容】 定期試験、解説
8	【到達目標】 中間試終了後に各検査の重要ポイントを総復習し理解を深める。 【授業内容】 中間試験、総復習		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	補聴器・人工内耳 Hearing aid and Cochlear implant	必修選択	必修	年次	2	担当教員	千葉 星雄　近藤 由以子
学科・コース	言語聴覚士科Ⅱ部	授業形態	演習	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月・水曜　５，６ 限

【実務経験】　言語聴覚士として補聴器専門店や補聴器メーカーでの勤務を経て、補聴器専門店を運営。主に成人難聴者への補聴器フィッティングを行っている。講師は、耳鼻科専従の言語聴覚士として検査業務、人工内耳リハビリテーションなどの業務に従事している。

【授業の学習内容】

言語聴覚士として補聴器専門店を運営する担当教員が、補聴器の構造や機能、フィッティング理論、適合検査についての授業を行う。教科書等での知識の伝達だけでなく、実際の補聴器や補聴援助機器に触れる機会を設け、より実務に則した知識の定着を図る。言語聴覚士国家試験に対応する内容をカバーしながらも、テクノロジーの進化が著しい分野であるため、できる限り最新の技術や知見も合わせて紹介する。
人工内耳（リ）ハビリテーションは、解剖・音響学的知識だけでなく、聴覚障害の歴史や社会保障制度、小児の場合発達段階にも注目して支援をする必要がある。
大学病院で人工内耳の術前・術中・術後の（リ）ハビリテーションに関わってきた経験から、一連の関わりについて、系統立てた授業を行いたい。

【到達目標】

聴覚障害者に対する聴覚補償機器の一つである補聴器の構造や機能、特徴について理解し説明することができる。
補聴器のフィッティング理論や適合検査について学び、難聴者への適切な補聴器供給を行うための知識を身に着ける。
障害者総合支援法による補装具費支給制度や各種補聴援助システムについて理解し、難聴者への支援についての知識を深める。
聴覚器や人工内耳の構造・仕組みを把握し、人工内耳の適応基準を理解する。
人工内耳以外の人工聴覚機器についても知識を深め、適応と限界について理解する。
音声以外のコミュニケーション、音声補助装置、ろう文化についての知識を身に着ける。

【使用教科書・教材・参考書】
・「標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版」医学書院
・必要に応じて適宜資料を配布する

【授業外における学習】
音響学や聴覚系の解剖生理の知識が前提となるため復習しておくこと。
教科書の通読

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 補聴器の基本構造、種類や特徴について理解する。 【授業内容】 補聴器の構造と機能①	9	【到達目標】 補聴器適合検査の指針に基づく適合評価について理解する。 【授業内容】 補聴器適合検査
2	【到達目標】 デジタル補聴器の機能について理解する。 【授業内容】 補聴器の構造と機能②	10	【到達目標】 各種補聴援助システムと補装具費支給制度について理解する 【授業内容】 各種補聴援助システム・補装具費支給制度
3	【到達目標】 補聴器の性能や調整状態を示す用語、JISについて理解する。 【授業内容】 補聴器の周波数特性①	11	【到達目標】 授業の総括と定期試験によって知識の定着を図る 【授業内容】 まとめ・定期試験
4	【到達目標】 リニア増幅とノンリニア増幅について理解する。 【授業内容】 補聴器の周波数特性②	12	【到達目標】 近年進化している人工聴覚機器の種類とその適応について理解する。 【授業内容】 人工聴覚機器の種類と適応
5	【到達目標】 補聴器周波数特性の測定と調整について理解する。 【授業内容】 補聴器の周波数特性③	13	【到達目標】 人工内耳の原理、各社の音声情報処理方法について知識を深め、押さえておくべき専門用語を理解する。 【授業内容】 人工内耳の原理と音声情報処理
6	【到達目標】 補聴器の適応や装用耳の選択、器種選定について理解する。 【授業内容】 補聴器のフィッティング①	14	【到達目標】 術前評価・リハビリテーション、術前評価と術後の（リ）ハビリテーションと評価を経時的に理解する。 【授業内容】 人工内耳（リ）ハビリテーション
7	【到達目標】 規定選択法と比較選択法、利得・最大出力の調整について理解する。 【授業内容】 補聴器のフィッティング②	15	【到達目標】 人工内耳の限界を知り、必要な聴覚援助システムを理解する。ろう文化についても理解する。授業の総括と定期試験によって知識の定着を図る。 【授業内容】 聴覚援助システム・ろう文化 定期試験
8	【到達目標】 耳型採取の実施手順や注意事項、イヤモールドについて理解する。 【授業内容】 耳型採取とイヤモールド		

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）